

令和3年度 福岡市総合教育会議

議事録

○日 時

令和3年11月30日(火) 午前11時15分～12時00分

○開催方法

Web会議

○出席者(7名)

市長 高島 宗一郎

教育委員会 星子 明夫(教育長)

町 孝 原 志津子

武部 愛子 西村 早苗

徳成 晃隆

議事次第

1 開会

2 市長挨拶

3 教育長挨拶

4 議事

(1) 協議事項

・令和3年度の取組みの進捗報告と今後の方向性について

① ICTを活用した新しい学習スタイル

② 教員のICT指導力の向上

③ 児童生徒のこころのケア

※ 西陵中学校とのオンライン交流

(2) その他

5 閉会

○協議・調整が行われた事項

(1) 協議事項

○令和3年度の取組みの進捗報告と今後の方向性について

教育委員会から、ICTを活用した新しい学習スタイル、教員のICT指導力の向上、児童生徒のこころのケアについて説明し、意見交換を行った。

(主な意見)

- ・今年台風が来た際、オンライン授業により学びが止まらなかった。何かあった時には、学びを確保するという意味でオンライン授業はすごく大きな効果がある。
- ・オンライン授業で、画角や黒板が小さすぎて見えないという課題がある。例えば、一番上手く活用している先生を表彰し、その取組みを動画でシェアする形で、良い競い合いや皆でレベルアップができればいいのではないか。
- ・オンライン授業は、長時間になると緊張感が緩んだり、先生も細かい授業中の態度をつかむことが難しい。オンライン授業に特化した指導スキルを磨くことも必要。
- ・ICT推進リーダー、サブリーダーの中には、40代、50代の経験豊富な教員も活躍されている。この方たちの発言力は非常に大きいと思うので、ぜひ活用していただきたい。
- ・パソコンを活用していくためには、得意な人が苦手な人をどうサポートしていくか。若者たちは慣れていて得意なので、現場の中で協働性を高めていただきたい。
- ・指導技術や学級経営のノウハウについて、優れた教員がいるので、ICT教育を含む良質な実践が、授業実践動画や実例動画など研修用の教材として活用されていくことを期待したい。
- ・第4次産業革命の時代を生きていく子どもたちに、どのようにスキルとマインドを育成していくのか、その教育のあり方をしっかりと見つめていかなければならない。
- ・デジタル教科書の導入について、1教科、2教科でも全国に先駆けてできるようぜひお願いしたい。
- ・誰にも相談せずに自分の中でどんどん思い込んでしまうケースが多く起きている。やり取りを大切にされたプログラムを積極的に作っていかないといけないと感じる。
- ・ヤングケアラーも含めて、家庭の状態によっては家庭訪問に来てほしくないということもある。こういう時こそオンラインを活用したアウトリーチをもっと進めていく必要がある。
- ・気軽にちょっと相談できるというのがなかなか不足しているところがある。ぜひオンラインを使ったアウトリーチでも、子どもたちが言いやすいような雰囲気づくりとか状況把握に努めていただきたい。

(2) その他

- ・今後、子どもたちのウェルビーイングを大切にする取組みを進めるためにも、学校現場におけるウェルビーイングの把握について、ぜひ検討をお願いしたい。
- ・学校においても、充実感や幸せ、満足感といったウェルビーイングを大切にしていくことは重要と考える。学校におけるウェルビーイングの定義、指標、活用については、これから教育委員会でも検討していきたい。

発言者	発言内容
企画調整部長	<p>皆様よろしいでしょうか。これより、令和3年度福岡市総合教育会議を開催いたします。</p> <p>私は、本日の司会を務めさせていただきます、総務企画局企画調整部長の新穂でございます。よろしくお願いいいたします。</p> <p>それでは、開会にあたりまして、高島市長からご挨拶をお願いいいたします。</p>
高島市長	<p>教育委員の皆様方には、日頃から福岡市の教育行政の推進にご尽力を賜っていることをまずは感謝を申し上げたいと存じます。</p> <p>コロナということで、これを契機に社会のデジタル化が大きく進展をしています。国においては、デジタル臨時行政調査会というものがスタートして、デジタル時代に合った規制、制度、行政の見直しなどの基本方針となります「デジタル原則」というものの策定に向けて動き出しております。これについては、教育についても例外ではなくて、例えば、GIGAスクール構想の前倒しによって、1人1台端末や学校のネット環境の整備が一気に進みまして、今はそうした環境をベースとしたポストコロナ期における新たな学びの実現に向かって、大きな転換が求められているところであります。</p> <p>今日の会議では、今年の3月の総合教育会議での協議を踏まえまして、コロナ後も見据えた新たな学習スタイルの取組みについて、ICTを活用した新しい学習スタイルですとか、教員のICT指導力の向上、また児童生徒のこころのケアを中心に、進捗状況をぜひお聞かせいただいて、意見交換をしながら、今後の方向性を皆さんと共有できたらいいなというふうに思っております。</p> <p>それから、今日は終わりに、子どもたちとの交流の時間もとっていただいているということなので、楽しみにしております。</p> <p>短い時間ではありますが、教育委員会との連携を深める有意義な場にしていきたいと思っておりますので、今日はどうぞよろしくお願いいいたします。</p>
企画調整部長	<p>続きまして、星子教育長からご挨拶をお願いいいたします。</p>
星子教育長	<p>教育委員会を代表いたしまして、一言ごあいさつを申し上げます。</p> <p>これまで、子どもたちの学びの場としては、学校での学びと家庭での学びがございましたが、新型コロナウイルス感染症への対応とデジタル化の進展によって、1人1台端末を活用した双方向型のオンライン授業が可能となっております。新たに学校と家庭をつなぐオンラインでの学びが登場し、それに伴って学ぶ環境、教え方、学び方も大きく変化しているところでございます。オンライン授業も含めた令和3年度の取組状況の詳細については、後ほど説明がございましたが、この大きな変化に対応していくためには、ハード面での環境整備だけではなく、デジタル教材などソフト面で</p>

	<p>の環境整備、そしてそれらを使いこなす子どもたちの伴走者としてしっかりフォローしていく教員の資質、能力の向上が必須だと考えております。</p> <p>また、コロナは子どもたちのところにも大きな影響を及ぼしています。今年度はスクールカウンセラーの配置を大幅に増加するなど、児童生徒のこころのケアにもしっかりと取り組んでいるところでございます。</p> <p>本日は、そういった学校現場における学びの状況と今後の方向性について、高島市長と意見交換をさせていただき、教育行政のさらなる前進と充実につなげていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>企画調整部長</p>	<p>それでは議事に移ります。本日は、今年3月に開催した総合教育会議で「ニューノーマルにおける新たな学習スタイルの実践」についてご議論いただきましたが、「令和3年度の取組みの進捗状況と今後の方向性」について意見交換をお願いしたいと考えております。</p> <p>まず、資料を教育委員会からご説明いただいた後、意見交換を行う形で進めてまいりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、11時50分を目途に、西陵中学校とオンラインでつなぐ予定となっております。</p> <p>会議終了は12時を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、資料について、教育委員会事務局からご説明をお願いいたします。</p>
<p>指導部長</p>	<p>指導部長の木下でございます。それでは「令和3年度の取組みの進捗報告と今後の方向性」について、資料に沿って説明させていただきます。</p> <p>資料1枚目をお願いいたします。「1 ICTを活用した新しい学習スタイル」についてです。</p> <p>まず、ハード面での環境整備ですが、昨年11月末に1人1台端末の整備が完了し、今年度はネット環境がない家庭にモバイルルータの配付、そして通信費を市独自予算で負担していただけたことで、福岡市においては、すべての児童生徒が家庭でも端末を活用できる環境が整いました。これらの環境を活用した取組状況を3つの柱で記載しております。</p> <p>1つ目の学校での授業では、学習動画やデジタル教科書を活用することで、分かりやすい授業を実施し、学習意欲の向上や理解度の向上につなげています。学習アプリの活用では、資料作成などを協働で実施し、AIドリルの活用では、朝の時間や放課後などを活用して補充学習を実施することで、基礎学力の定着に取り組んでおります。</p> <p>次に、2つ目の家庭学習では、端末の持ち帰りによって、家庭でもAIドリルが活用可能となり、個々に合わせた学習の実現や学習動画による予習復習で、自ら学ぶ学習の実現につながっています。</p> <p>最後に、3つ目のオンライン授業ですが、双方向型授業として、コロナ禍においても、感染不安や学級閉鎖で学びを止めない体制を整えていま</p>

す。なお、感染拡大と夏休み明けが重なった9月7日には、1万人以上に対し実施しております。この3本の学びの柱を支えるソフトとして、学習動画の配信にも力を入れており、今年度は記載の5教科を中心にポイントを分かりやすくまとめた学習動画を学習の予定月に合わせて配信しているところです。

今後は、これらの取組みを継続するとともに、資料右側、今後の方向性にありますように、学習者用デジタル教科書のさらなる活用やICTコンテンツのさらなる充実、蓄積される教育データの効果的な活用、そして、児童生徒の情報活用能力の育成と情報モラル教育の充実に取り組んでいきたいと考えております。

その他、特色あるオンライン授業の形として、多くの児童生徒がリモート参加した「いじめゼロサミット」や離島などの小規模校をオンラインでつなぐ「ジョイントクラス」についても紹介させていただいております。

資料2枚目をお願いいたします。「2 教員のICT指導力の向上」についてです。

まず、今年度の推進体制は記載のとおりで、各学校にICT活用推進リーダー、サブリーダーを配置し、これらのリーダーが中心となって組織的な研修を行うこととしております。具体的な取組みとしましては、リーダーを対象に専門講師による研修を行い、スキルアップを図った上で、リーダーを中心に校内研修を実施し、教員一人ひとりのスキルアップを図っております。

また、希望する先生には、教育センターにおいて、実践交流中心のセミナーや夜間のスキルアップ講座を行うほか、動画マニュアルサイトによる自主研修を推進しております。

今後の方向性ですが、リーダーたちが横のつながりを持つための情報交換会や優れた授業実践事例の共有、校内研修への指導主事派遣などによる組織的な研修体制の定着とともに、ICTに苦手意識を持つ教員の授業力向上にも取り組んでいきたいと考えております。

ここで一旦、これまでの説明に関連した実際の授業の様子や児童生徒、先生の声動画をまとめておりますので、そちらのほうをご視聴いただきたいと思います。

(「ICTを活用した新しい学習スタイル」、「教員のICT指導力の向上」に関する動画を上映) (約5分)

動画の中にあつたオンライン授業につきましては、生徒や先生の声にもありましたように、多くの成果がみられるところですが、これまでの取組みを総括いたしますと、主な課題が3点あるのではと考えております。

	<p>1点目は、児童生徒が1人1台端末で受講するために黒板や教室を映す際、カメラの画角や画質、解像度など、児童生徒側からどのように見えているのか、どう写したらより分かりやすい授業となるのか、よりよい機材がないかも含めて探求していく必要があると考えております。</p> <p>2点目は、実技を伴う教科によっては、火を使ったり、刃物を使ったりするなど、作業が伴っていくため、家庭での活動を制限しております。対面ではないと十分な指導ができない教科や単元がありますので、オンラインと対面のベストミックスを探求していく必要があると考えております。</p> <p>3点目は、健康面への配慮です。現在、端末を使う際の約束として、30cm以上離して見る、30分に1回は端末から目を離す、寝る1時間前は使わないなどを児童生徒や保護者に呼びかけております。学校のオンライン授業においても、長時間の端末視聴にならないような授業構成や時間割を探求していく必要があると考えております。</p> <p>資料2枚目に戻りまして、「3 児童生徒のこころのケア」についてです。まず、相談体制は記載のとおりで、教育、心理、福祉の専門家が連携し、支援を必要とする子どもや家庭に対応しております。取組みの状況ですが、今年度はスクールカウンセラーの配置日数を増加しており、それに伴って相談件数や研修も増加しております。</p> <p>また、昨年度に続き、全児童生徒への1対1の面談やSNSを活用した教育相談を通して、問題の早期発見に取り組むとともに、校内支援会議の充実やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと共働した家庭訪問など、アウトリーチ的な支援の推進により、個への積極的な支援に取り組んでいるところです。</p> <p>今後の方向性につきましては、子どもたちや家庭が相談しやすい環境づくりの推進として、1人1台端末の活用や実態に応じたスクールソーシャルワーカー等の勤務体制の整備、経験豊富なスクールソーシャルワーカーの知見の活用など、アフターコロナを見据えた支援に取り組み、相談の窓口を広げていくこととあわせまして、こどもの貧困やヤングケアラーといった実態が見えにくい困難を抱える子どもや家庭を能動的に把握していく取組みが必要ではないかと考えているところでございます。</p> <p>説明につきましては以上です。</p>
企画調整部長	<p>それでは、ここから11時50分を目途に意見交換に入りたいと思います。スムーズな意見交換になるよう進行は高島市長にお願いしたいと思っております。</p> <p>高島市長よろしくお願いたします。</p>
高島市長	<p>まず、今の報告をいただきまして、コロナで学校が一斉休校になったりとかこれまで経験したことのない状況が起きたり、また一気に学校でのICT化が進んできてどうなっているのかなと思っていましたが、教育委員会からのお話が、動画で状況紹介なんてことはこれまでは絶対なかったな</p>

	<p>と。これはやっぱり、作ってきているということ自体が大きく意識も含めて、具体的なスキルも含めて、変わってきているなと思いましたし、子どもたちの声も聞いて安心しました。</p> <p>もちろん、あそこで紹介しきれなかった部分も含めて、先生たちの中には、今日出たのは結構比較的若い先生方が登場していたと思うのですが、やはり年齢が高い方、特に50代後半とかでなかなかICT苦手だと、自分はわからんとかいう方もいらっしゃるかもしれないと思ったのですが、そういった方のフォローは、具体的にどういったふうにされていらっしゃるのでしょうか。</p> <p>もしくは、今後の例えば、ICTを使った学習を教える先生方のスキルアップのための具体的なイメージ、プランがあれば教えてください。</p>
指導部長	<p>では、私のほうから説明させていただきます。</p> <p>まず、どうしてもICTに苦手意識を持っている教員というのは、一定数いると我々のほうでも認識しているところでございます。そういう中で、やはり校内において、すぐに相談できる体制というものが一番大事だと考えておまして、先ほど説明いたしましたように、推進リーダー、サブリーダー等を位置付けて、すぐ校内で、アドバイスができるという推進体制をしっかりと整えてきたところでございます。</p> <p>また、オンラインにつきましても、全市一斉の土曜授業でのオンライン授業を小中学生一斉につなぐということを全ての学級で経験しておまして、体験や機会を通して、先生方にしなければならないという意識を高めていって、実際にすることによって技能を高めるとともに、先生たちの自信をつけてきたということで、この1年間、様々な機会でも先生方の意識向上を図ってきたところでございます。</p> <p>今後につきましては、やはりキーになるのは、先ほど説明いたしました推進リーダーだと思っております。推進リーダーが中心となって、学校で短い時間でも構わないので、研修の機会を多く組みながら、色々なリテラシーを先生方に伝えていく、そして学校全体でICTを活用した色々な取り組み、行事での活用や授業への活用をし広げていく、そういう機会を多くしていくことによって、先生方一人ひとりの意識と授業力の向上を高めていきたいというふうに考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
高島市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>例えば、画角の話とか、黒板が小さすぎて見えなかったりというところは、課題が明確になっているので、多分同じ課題って皆さん持っていると思うんですね。ですから、例えば、これを一番上手く活用している人を表彰するとかですね、そういった人の取り組みをみんなで共有して、中央区で一番になった先生は、こういう工夫をしていますとかみたいなものを動画で皆さんでシェアするというような形で、いい競い合いみたいなことも</p>

	<p>できたらいいんじゃないかなというふうに思って。みんなでレベルアップできればいいんじゃないかなと思いました。</p> <p>町さんから手が挙がっていますので、町委員どうぞ。</p>
町委員	<p>推進リーダーとサブリーダーについて、市長は先ほど年配者は苦勞して るだろうとおっしゃったんですけど、実は、調べていただいたら 50 代 以上の方が 5% くらいいらっしゃるんですね。40 代と 50 代を合わせると 全体の 4 分の 1 くらいの方が、推進リーダー、サブリーダーとして経験豊 富な方が活躍されていらっしゃる。この方たちの発言力というのは非常に 大きいと思いますので、ぜひ活用していただきたいと考えているところ です。</p>
高島市長	<p>ありがとうございます。徳成委員お願いします。</p>
徳成委員	<p>この間、オンライン研修や校内研修、自己研鑽の積み重ねで、現場の先 生方の ICT の活用スキルアップがここまで進むというのは、とても画期 的であると同時に現場の対応力の高さと努力に敬意を表したいと思いま す。しかしながら、パソコンというのは、鉛筆やノートと同様に教材や文 房具のひとつとして、これから活用していくためには、得意な人が苦手な 人をどうサポートしていくか。若者たちは生まれたときから iPhone を 使うことに慣れていて得意な訳ですから、現場の中で協働性を高めてい ただきたい。指導技術や学級経営のノウハウについて、たくさん優れた方が いらっしゃいますので、ICT 教育を含む良質な実践が授業実践動画や実 例動画など研修用の教材として活用されていくことを期待したいと思っ ております。</p> <p>同時に、これから第 4 次産業革命に向かっていくわけですが、ま さに教育は学びのイノベーション、そこに学びの道具としての ICT 教育 が切望されて、研究、実践が進められていくことになると思うんですけれ ども、本当に大変な時代を生きていく子どもたちに、どうスキルとマイン ドを育成していくのかその教育のあり方をしっかりと見つけていかなけ ればならないと思っています。以上です。</p>
高島市長	<p>ありがとうございます。今、徳成委員からも子どもたちへのケアの話と かも出たんですけど、後半のお話のほうで出てきた子どもたちの家での状 況とか学習、生活のペースのつかみ方に苦勞があったという話を伺いまし たけれども、こころのケアについて、ちょっとは公開の会議ですので、具 体例が言いにくいこともあるかもしれませんが、何かコロナ特有のことで こうした事例が起きていてとかいうのが、シェアできることがあれば願 いします。</p> <p>武部委員どうぞ。</p>
武部委員	<p>実は、私も今たくさんそういう事案に触れていますので、一応ご説明し ておきたいなと思ったのは、自分を傷つけるとか友達とうまくいかない というケースがたくさんあるんですけれども、一番気になるのはその質が変</p>

	<p>わってきたと。どういうふうに変わってきたのかというと、誰にも相談しないで、もう自分を傷つけてしまうとか。友達との関係について喧嘩せずに、思い込んでしまう。自分の意見を言ってやり取りをして、そこでもめて発覚するのではなくて、自分の中でどんどん思い込んでしまって、ものすごく自分の中で考えが膨らんでしまうっていうような、そういうことがとても起きていて、やり取りがとっても減っているなというのをすごく感じることがあります。そういう意味では、相手の存在とかやり取りとかっていうのを大切にやり取りできるようなプログラムを積極的に作っていないと子どもたちの力だけでは、もしかしたら待っていても難しいのかもしれないなと感じています。</p> <p>あと、先ほどのヤングケアラーの話も含めて、ご家庭の状態で保護者の方のメンタルの厳しさが少し見えてきておりまして、そういう方は家庭訪問はちょっと来てほしくないということもありますので、こういう時こそオンラインを使って、友達とお話ができたりするオンラインによるアウトリーチというのもっと進めていく必要があるなというふうに思っております。以上です。</p>
高島市長	なるほど、ありがとうございます。他にありますか。はい、原委員お願いします。
原委員	<p>私も保護者なので、実際にオンラインでやっているところを拝見したんですけれども、確かに武部委員がおっしゃられたように学校に来れないお子さんたちにとっても効果が大きいと思っていたんですけれども、実際、自分の子どもとかに聞いたりしているとですね、オンライン授業というのが小中学生が一人で授業を受けることになるので、長時間とか期間が長くなってくると緊張感が緩んだり、集中して自律的にオンラインの授業を一人でずっとやるというのは、なかなか難しいところがあるのと、先生も細かい授業中の態度をつかむこともなかなか難しいところがあるので、やはり授業とかを双方向にしたりして、手元の課題とかを映しながらとかオンライン授業に特化したような指導スキルというのを先生たちが磨かれていかれたりするといいいのかなというふうに思いました。</p> <p>また、今年台風が来て、いきなり休校の措置になるのかなと思ったんですけれども、実際オンライン授業になって学びが止まらなかったところなど、何かあったときには学びを確保するという意味では、すごく大きな効果があるんじゃないかなという認識です。以上です。</p>
高島市長	<p>確かにそうですよね。不登校の子だって、例えば、学習動画があれば、入院中であっても病気しても、家から遅れることなく授業の動画を見ることができたりとか、それこそ台風とかの恐れがあるときにわざわざ雨の中、風の中、危ない中、出てこなくても家で学習を止めずにできるというのは、副次的な効果もありましたよね。</p> <p>他にありますでしょうか。よろしいですか。教育委員会の方から何かあ</p>

	ればお願いします。
木下部長	<p>子ども達の状況を把握するというのは、大事なことでありまして、一番把握できる場というのが学校じゃないかなと思っております。今現在も月に1回、子ども達へのアンケートを取りながら、幅広く友人関係または家庭の状況などにつきましても把握しております。そのことをしっかりと専門家であるスクールソーシャルワーカーと相談できる体制などを整えていきながら、先ほど武部委員も言われましたようにアウトリーチ的な対応につなげていくということが大事だと思っております。</p> <p>また、学校で把握した情報を他局とも連携していきながら、幅広く子どもたち、家庭への支援につなげていくことが大事だと思っておりますので、学校での把握を今後もしっかりと充実させていきたいというふうに考えております。</p> <p>以上でございます。</p>
高島市長	<p>そうですね。武部委員が先ほどおっしゃったような質が変わってきているというようなところで、気軽にちょっと相談できるというのがなかなか不足しているところがあるようですので、ぜひオンラインを使ったアウトリーチでも、みなさんも子どもたちが言いやすいような雰囲気づくりとか状況把握に努めていただきたいと思います。</p> <p>町委員お願いします。</p>
町委員	<p>今まで、ICTでは福岡市はどちらかという一周か二周くらい遅れていたのが、GIGAスクール構想で、高島市長を中心にやっていただいております。お金をつけていただきまして、全国でもトップレベルのハードはできました。</p> <p>ただ、今度はソフトですね。デジタル教科書の使用については授業時数の2分の1未満にしないといけないという基準も見直されましたし、デジタル教科書になっていくと思うんです。ただこれは、お金が高額なんです。非常に。最終的には、国が面倒見てくれるようになるんじゃないかと思いますが、そういった部分の予算措置を1教科、2教科でも全国に先駆けてできるような予算付けをぜひお願いしたいなというふうに思っております。すみません。これ勝手に申しあげましたけれど、予算的なことを言うとちょっと厳しいかも分かりませんが。</p>
高島市長	町委員、誰か教育委員会の方から、今日この場で言ってくれて言われました。
町委員	いえいえ、そんなことはないです。
高島市長	うそです、うそです(笑)。
町委員	私はもともとデジタル教科書がいつできるのかなというのを教育委員になってから、7～8年前から言っておりましたので、やっとこの時期になったなど、諸外国に比べてすごく遅れているなというのが感想でしたので。

高島市長	<p>はい、ありがとうございます。でも本当にインプットでいくとデジタル教科書が非常にわかりやすかったりするものもありますので、うまく活用できたら本当にいいなというふうに思います。ただ色々と規制があつてですね、両方、ダブルでしないといけないというのを私も教育再生実行会議に出て、まさにその議論の中で、こんなことがあるんだという世界を見せていただきました。</p> <p>他によろしいでしょうか。では、この後は子どもたちも待っているということですので、一旦お返しします。</p>
新穂部長	<p>活発な意見交換ありがとうございました。</p> <p>(西陵中学校 Web会議に入室)</p> <p>それでは、今年度は、ICT推進校の西陵中学校2年4組の皆さんとつながっております。</p> <p>それでは高島市長お願いいたします。</p>
高島市長	西陵中学校2年4組の皆さん、こんにちは。聞こえますか。
西陵中学校(担任)	聞こえています。
高島市長	ICT推進校と聞いたんですけども、具体的にはどういった取組みをされているんですか。
西陵中学校(担任)	<p>はい、ではお答えさせていただきます。皆さんこんにちは。私、福岡市立西陵中学校2年4組の担任をしております小島といいます。よろしくお願いいたします。今年度、ICT推進校として西陵中学校が取り組んでいることを報告させていただきます。</p> <p>まず授業では、各教科クロームブック(1人1台端末)を使った授業に取り組んでおります。カメラ機能を使って記録に残す評価を行ったり、デジタル教科書を活用した授業や自作の解説動画を作成し家庭学習に活用したり、ミライシードやキュビナのAIシステムを使い反復練習をし、学習内容の定着に取り組みました。</p> <p>その他に、総合的な学習の時間では、この学年の生徒たちはコロナ禍の中で、なかなか対外授業ができず職場体験や社会人講話ができず、色々と考えたんですが、その中でクロームブックを使って、まずはSDGsの学習に取り組みました。その中で、11番の目標である住みよいまちづくりを目標に子どもたちが勉強し、地域の魅力とSDGsの関連をしっかりと学ぶことができました。それを使って、今年度2年生になって職場体験の代わりに職場訪問の形で地域のインタビューを行い、そこで子どもたちが職場の魅力について、職場紹介という動画をインタビューで作ることができました。そして、そのお礼も兼ねてICT機器を使いポスター作りをし、職場にお礼をすることができました。このように西陵中校区の色々な方々とのつながりを持ちながら、子どもたちは新しいキャリア教育の形を作ったと思っております。</p> <p>そして、部活動や学校行事では、なかなか部活動ができない中で、クラ</p>

	<p>スルームなどそういったものを使って、生徒との動画配信での練習であったり、子どもたちとのスプレッドシートを使っての報告日記という形で交換日記を行ったり、その他にも行事では、係や実行委員との連絡にどんなときでもミートやクラスルームを使って連絡を行ったりすることができ、とても運用をスムーズに進めることができました。</p> <p>そして、最後に一番は、異校種間交流や国際交流です。小学校6年生との新入生説明会では、生徒会の子たちが部活動の動画をミートで紹介したり、小学生からの質問を受けて生徒会の子たちが中学校というのはいくつだよという説明をしたり、中学校3年生では、西陵高校と交流を行い高校生になるための準備であったり高校の学校生活を教えてもらったり、ニュージーランドの留学生との交流を行い、海外での生活の仕方などを色々と教えてもらいとても勉強になりました。このようにICTを活用して、西陵中学校はたくさんの人とのコミュニケーションを取ることができ、さらに子どもたちの成長につながったと思っております。</p> <p>以上でご報告とさせていただきます。ありがとうございました。</p>
高島市長	<p>ありがとうございました。で、そんなオンライン授業を実際受けてみて、生徒のみなさんに感想をお伺いしたいのですが、どなたか教えてもらっていいですか。</p>
西陵中学校（担任）	<p>それでは生徒に聞きたいと思います。1人1台端末が入った授業のことについて、発表してくれる人。</p>
西陵中学校（生徒）	<p>はい。（多数挙手）</p>
高島市長	<p>おー。</p>
西陵中学校（担任）	<p>（生徒を指名）</p>
西陵中学校（生徒）	<p>高島市長、こんにちは。</p>
高島市長	<p>こんにちは。</p>
西陵中学校（生徒）	<p>先ほどの質問に答えさせていただきます。ICT端末が導入されてから、様々な教科で授業が変わりました。国語の授業では-googleフォームを活用してクイズ形式で楽しく暗記ができるようになったり、-googleスライドを使用してスピーチ発表会が行われたりしました。数学では、授業で使用するプリントの解説動画が配信されて、先生の解説を聞きながらいつでも予習復習ができるようになりました。理科では授業で使用するスライドが公開されたので、いつでも予習復習ができるようになりました。また、シミュレーション教材を使った実験も行われているので、事故なく安全に実験をすることができるようになりました。社会では、先生が事前に作ってくださった授業動画を各自で見ながら、プリントの穴埋めをする授業になりました。分からないことがあれば先生に聞いたり、1人1台の端末で調べたりするようになりました。英語ではデジタル教科書が導入されたので、教科書の英文や単語の発音をそれぞれの端末で何度でも聴くことができるようになりました。また、技術ではプログラミング学習やタイピ</p>

	ングの練習などが行われていて、音楽では、クロームブックのカメラ機能を活用した歌唱テストなどが行われていました。
高島市長	えっ、何テスト？
西陵中学校（生徒）	歌唱テスト、歌のテストです。
高島市長	歌にテストがあるの？
西陵中学校（生徒）	はい。テストというか、評価をつけるための。
高島市長	例えばなに？カラオケみたいに音程が出てくるとか、そんなの？
西陵中学校（生徒）	音程はないんですけど、歌の動画を撮って、それを後で先生が聴いて評価するという。
高島市長	そんなのがあるんだ。恥ずかしくはない？動画で一人こう歌うって。
西陵中学校（生徒）	みんなで同じ教室で、それぞれが自撮りしながら歌うので、恥ずかしくはないです。でも、自分でその動画を後で見返したときには、ちょっと複雑な気持ちになります。
高島市長	なるほど、ありがとう。それで、実際オンラインで色々授業受けてみて、ここってこう改善した方がいいなとか、こうなったらいいなってことはある？
西陵中学校（生徒）	生徒が話し合える環境をつくったら、実際の授業とも近づいてもっとよくなると思います。
高島市長	うんうん、なるほど。小島先生どうですか。
西陵中学校（担任）	はい、本当に子どもたちが言ったとおりで、やっぱり勉強が苦手という子どもたちが、一人でもできるような環境をどうにかつくってあげたいなと思っております。そうすると、話し合えるチャット機能だけではやはり難しいので、子ども同士でも動画で顔を見ながら話し合えるような機能であったりとか、自分の力もそうですけど解説動画がもっとできるようなドリルを増やしたりだとか、そういったところが増えるともっと子どもたちのためになるなと思いました。
高島市長	なるほど。私も前1回、福岡市を紹介するような動画を作ったことがあったんですけど、クリックして見ることある？
西陵中学校（生徒）	（多数挙手）
高島市長	例えば、ああいう動画の中で、こういうことも教えて欲しいとかいうことがあったら、次の動画のテーマでやってもいいけど何かリクエストはある？
西陵中学校（担任）	何かリクエストある人？
西陵中学校（生徒）	はい。（生徒挙手）
高島市長	お、なにに？天神ビッグバンについてとか？
西陵中学校（生徒）	僕は、社会の、福岡の歴史など福岡の周りであったことの動画をもっと出してほしいと思いました。
高島市長	お、なるほどね。ありがとうございます。参考にさせていただいて、皆が見てくれるんやったらちょっと作ってみらんとね。あの時は、ちょっと

	<p>お試しで1回やってみたんですけれども。ありがとうございます。皆さんがうまく活用してくれてることも聞きました。</p> <p>家に持って帰ってどうやって使ってるとか、実際ユーチューブ見てるんでしょとか色々聞きたいこともあったけど、ちょっと時間になったので、またの機会に、また皆さんと交流できたらいいなと思います。ありがとうございました。</p>
西陵中学校	<p>ありがとうございました。さようなら。</p> <p>(西陵中学校 Web会議から退室)</p>
高島市長	ありがとうございました。
企画調整部長	続きまして、その他として何かございますでしょうか。
高島市長	<p>あの、一個ですね。提案したいことが今日はありまして、スライドを準備してきたので、映していただいていいですか。</p> <p>何かというと、今世界的にウェルビーイングへの注目が高まっています。ウェルビーイングっていうのは、充実度とか幸せとか満足度というような、人々の主観的な意識などを大切にするということです。私が委員を務めた国の教育再生実行会議の中でもウェルビーイングの重要性というのが提言に初めて盛り込まれた訳ですね。</p> <p>そうした中で、先日11月12日に行われましたウェルビーイングのトークセッションの中で、ウェルビーイングの研究の第一人者である石川善樹さんから、素晴らしい提案をいただきました。学力みたいな客観的なデータに加えて、児童生徒、それから先生の主観的なウェルビーイングというものを把握して、そうしたものの関連性を分析することによって、今後学校がどう取り組んでいくかということを検討していくことができれば、よりよい学校づくりにつながってくるんじゃないかということなんです。</p> <p>教育再生実行会議の中でもウェルビーイング実現のために、データ駆動型の教育への転換とあわせて適切な指標を設定して、その効果を実証・検証していくことが重要とされています。まずは、現状を把握してそれをもとに、何が課題で、どう改善していくかというのを考えるきっかけづくりが大事ななと思います。</p> <p>今後、子どもたちのウェルビーイングを大切にする取組みを進めるためにも、学校現場におけるウェルビーイングの把握について、ぜひ検討をお願いしたいなというふうに思います。</p> <p>そして、先生方にとっても生徒にとっても学校現場というところが、より充実できる場所になればいいなというふうに思います。私からは以上です。</p>
教育長	私からよろしいですか。
高島市長	はい。
教育長	学校においてもそれこそ子どもの充実感や幸せ、満足度といったウェル

	<p>ビーイングを大切にしていくことは、とても重要であると考えております。同じように教員も健康を含めた幸せ、ウェルビーイングを大切にしていくことは重要であると思っています。</p> <p>これから、学校におけるウェルビーイングをどのような形で定義して、どういった指標で測定し、そして活用していくのか、これから教育委員会でも検討してまいりたいと思います。</p>
企画調整部長	<p>ありがとうございます。他にはよろしいでしょうか。それでは、閉会にあたりまして、高島市長からご挨拶をお願いいたします。</p>
高島市長	<p>改めまして、委員の皆様、今日はどうもありがとうございました。</p> <p>コロナの中でも現場では、一生懸命子どもたちもたくましく新しい状況を受け入れながらがんばっているという姿もありましたし、またそこで出てきている課題を教員または教育委員会のみなさんも把握をして改善に向け取り組んでいる姿勢というのも非常によくわかりました。</p> <p>コロナがこのまま収まってくれるのが一番いいんですけども、来年も含めて年末年始にかけてもどうなるかというのは、本当に予断を許さない状況がまだもう少し続くのかなと思いますので、こうしたICTもできる限り改善をして、いい部分をどんどん今後も取り込んでいけるように取組みを進めていただきたいと思いますし、またヤングケアラーとか、もしくは子どものこころのケアとかですね、ぜひ委員の皆さんにはこうした部分へも目を凝らしていただいて、観察をしていただいて、しっかり救っていただけるように、そういった部分でもお力添えをよろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>今日はどうもありがとうございました。</p>
教育長・教育委員	<p>ありがとうございました。</p>
企画調整部長	<p>これももちまして、令和3年度福岡市総合教育会議を終了いたします。皆様ありがとうございました。</p>